

# はたらく女性のフロア通信

発行日:2021年9月25日

NO. 48



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

## はたらく女性のフロアかながわ第13回総会から

8月13日の総会と交流は、かながわ県民センターがコロナの緊急事態宣言が出されたため、会場が使えず、やむなくオンライン開催になりました。オンラインでの参加の環境が整っていない方もいましたが、9人が参加しました。総会報告は2ページをご覧ください。

第2部の交流会は、君嶋千佳子さんの「神奈川県議会報告」のお話しです。概要は次の通りです。

### ▼コロナをめぐる県内状況

8月10日現在の状況は、一日当たり新規陽性者数1672人(先週比+274)。ワクチン接種率は、全世代29.51%、64歳以下9.39%、救急搬送困難事案(7月21日~8月1日)233件(先週比126.6%)。病床利用率は、病床全体72.46%(1297床)、重症者用86.43%(172床)。入院患者は1297人(重症172人、中等症1021人、軽症者104人)。療養者は12064人(宿泊療養施設585人、自宅11479人)となっている。

共産党県議団は、この間、PCR検査の拡充・医療機関の補助など見合った対策を求め、前進させてきた。しかし、医療機関への財政支援、事業所への協力金など、国からの交付金が財源とならざるを得ないため、使い方が限定されるなどのしほりもある。国のコロナ対策が変わらなければ、転換が困難なことを痛感した。

### ▼この間の特徴的な取り組み

#### ★生理用ナプキンの配布

P3の「君嶋ちか子がゆく②」をご覧ください。

#### ★教科書やり直し採択

2020年に各自治体教科書採択が実施され、4年間の使用が前提となった。2019年に検定不合格となった自由社の教科書が、2020年に合格となった。2021年3月、文科省は「採択期間の途中で採択換えを行うことも可能」とする通知出した。判断は各自治体に委ねられることに(自由社に採択の機会を与えるために、新たな項目を用意)。

だが、鎌倉・藤沢・茅ヶ崎・寒川・箱根・真



鶴・湯河原・大磯は採択やり直しは行わなかった。小田原・平塚・海老名・厚木・綾瀬・座間・大和・横浜などはやり直し採択を実施したが、「自由社の教科書は使用しない」との採択結果は変わらなかった。

各教育委員会では「短期間での変更は現場に負担」「自由社の教科書、一方的な記載が多い」との教育委員の見識が示された。

#### ★人権男女共同参画課の行方

従来は福祉こども未来局直轄の課として、人権男女共同参画課が存在したが、2021年4月から、局内に福祉こども未来局共生推進本部室をつくり、人権男女共同参画課を解消し、組織的にも「男女共同参画」の名称は消え「共生」にくくられる案が出されたが、議会外の団体及び県議団が、男女共同参画課を残すよう働きかけ、結果的に次のグループを設け、各グループに担当課長配置することになった。

①人権・同和グループ(人権施策に係る企画及び調整、同和対策に関わること等)②男女共同参画グループ(男女共同参画施策に関わる企画及び調整普及・啓発、配偶者暴力防止法の施行、売春防止法の施行及び女性の保護等)③意思決定支援グループ(障がい者の意思決定支援の普及・定着等)④利用者支援グループ(利用者目線の障がい者支援の推進・方策の検討等)

計画の全てが流れ夏終わる  
秋高しカジノ止めると新市長  
松尾 佐知子

## ★各会派の状況、今も変わらず

共産党提案の直近の意見書案に対する態度は、全て否決される。「オリンピックの中止を含めた検討を求める意見書」（賛成、共産党のみ）「LGBTの差別解消のための法制定を求める意見書」（賛成、共産党+ネット）「後期高齢者の二割負担の凍結を求める意見書」（賛成、共産党のみ）など。

議案・陳情・請願に対する態度は、共産党を除き、全ての会派が常に同一態度はいまもかわらない。しかし、国民的な課題となっている「少人数学級」や「PCR検査の拡充」など共産党が出したものを自民党が対抗的に出してきた、全会一致で賛成するなど、自民が右を向けば右、左を向けば左の議会運営が続いている。



長岡の「すみれプロジェクト」は、内閣府男女共同参画局の「地域女性活躍推進交付金（拡充）」を活用し、立ちあげられた市民のとりくみです。

（報告：小島八重子）

## WWFK第13回定期総会から

総会議案は、2020年活動報告、会計報告、会計監査、2021年活動方針、予算、役員体制が提案され、参加者全員の賛成で承認されました。

今回、方針の「女性差別撤廃条約実現アクション（OP-CEDAW）に参加します」は承認されましたので、早速、参加の申し込みをしました。

### 【出され意見】

○監査実施の日が違う

回答＝2020年を2021年に修正しました。

○会費が11名分しかないが、少ないのでは。

回答＝会計年度が3月31日末なので、それ以降の会費は計上していないため、次年度収入になる。

○会費の支出が少ないが。

回答＝公開学習会は5月22日開催のため、次年度支出（講師代、会場使用料）になる。

○通常総会時に会費をもらっていたが、会費の納入をどのようにしたらよいか。

回答＝今回はオンラインなので、次回の会報にゆうちょ銀行の振込先をお知らせし、振り込んでいただくようにする。

\*振込先は同封の用紙をご覧ください。

## 【参加者から】

○男女共同参画局のHPをみると「生理の貧困」での全国の自治体のとりくみが一覧になっていた。長岡でも「すみれプロジェクト」（NPO）が「だいじょうぶ、相談、思いを共有、おくばります」とのメッセージを含め、公共の場にナプキンを置いている。

○「食料支援はしているのか」との質問に君嶋さんは、大学生も食べるものがない、アルバイトもない、お財布に88円しかない、などの声が。民青では食糧支援をやっている。民青も申し入れているが、県は直接出来ないで、フードバンクへの情報提供は行っている。

○神奈川農民連女性部で「種苗法の改正をしないように国に求める陳情」を議会に出したが、当初は、共産党と立憲民主とネットが賛成してくれた。しかし、自民党他が反対で立憲民主とネットは反対に鞍替えった。

## 【2021年度役員体制】

代表 小島八重子

事務局 池田資子、伍淑子、  
佐久間由美子(会計)、中嶋ひとみ、  
本間重子、村田泰子

会計監査 白井光子

編集委員 池田、本間、小島

## 神奈川自治体学校・女性分科会

とき:2021年11月7日(日)

13時30分～16時30分

ところ:横浜市健康福祉センター

参加費:全体会から参加は1000円

分科会のみ参加は700円

内容:コロナ禍とジェンダー

…自治体の役割を考える…

★お話 「男女共同参画参画の

視点からの防災・復興」

秦好子さん(防災教育推進協会常務

理事、環境・防災コンサルタント)

★意見交換

〈注〉コロナの感染や総選挙の日程によっては中止の場合があります。

## 「カジノ誘致反対」の横浜市長誕生 佐久間由美子(会員)



横浜市長選挙は、8月22日、投開票で行われ、野党の共同候補、山中竹春さん(元横浜市大医学部教授)が18万票の差をつけ、圧勝しました。

「カジノ誘致は白紙」で当選した林市長が突然、カジノ誘致を決めたことから、2020年10

月にカジノの是非を決める住民投票条例直接請求署名を実施、2カ月で20万超の署名を集め、市に提出、1月の市議会に住民投票条例案が提案されましたが、与党(自公)の反対で否決されました。

横浜市にカジノ誘致を断念させるには、市長を変えるしかない、「カジノ反対の市長を誕生させる横浜市民の会」を結成。山中さんと市民の会は政策協定を結び、立憲・共産・社民・緑・新社会の各野党や、労働組合・市民団体などが推薦・支援しました。

選挙は8人が立候補。カジノ賛成は現職とあわせて2人だけ、6人がカジノ反対の異例の選挙に。特に、現職閣僚が菅首相の支援の下「カジノ誘致は取りやめ」を掲げた立候補に自民党は「自主投票」と混迷し、有権者は「信用できない」と批判

を強めました。

無名の山中さんは、毎日横浜市内で街宣活動を展開。各区民の会や団体は、スタンディングや肉声での名前の連呼など工夫してとりくみました。告示日以降は市民の反応が良くなり、「入れますから」「もう投票しました」などの声が増え、手ごたえを感じる選挙戦になりました。

勝因は、市民の「カジノはイヤ」という思いに応えた住民投票条例請求運動の署名の力が大きいといえます。そして実効あるコロナ対策を願う市民の期待にこたえる唯一のコロナ専門家の山中さんが、有権者の支持を得たこと。48歳という若さも、若い世代への共感を広げた要素でした。

9月10日から横浜市議会が始まり、山中新市長がカジノ誘致撤回を表明、10月1日にはIR推進室は解散しました。またコロナ対策加速化プランで、コロナ専門病院の開設(11月)、ワクチン接種計画の前倒し、抗体カクテル療法の本格実施などを具体化しています。中学校給食完全実施は、アンケートなどを含め、検討中。「3つのゼロ(小児医療費、出産費用、敬老パス)」は、財源問題も含め関係部局での検討を指示。いずれも、公約実現の方向で検討を進めています。

すでに自公議員は、本会議でヤジを飛ばすなど、対決姿勢を見せていますが、市民が傍聴席を満員にして、新市長を応援しています。引き続き市長と市民が力を合わせていく必要があります。

## 君嶋ちか子がゆく②① …神奈川県議会報告

### 生理が行政にも登場

#### モデル事業終了、全ての県立学校のトイレに

コロナ禍の下で、様々な問題が噴出しています。表面化したことの 하나가「生理の貧困」です。「みんなの生理」が実施したアンケートには、高校生・大学生などの5人に1人が生理用品の入手に苦労しているとの結果が示されました。

このような中で、共産党県議団は5月末、県と県教育委員会に生理用品の無償配布を求めました。その後、県立学校12校に、6月～8月のモデル事業として生理用ナプキンが配布されました。提供の仕方についても、気兼ねなく使えるよう保健室配布ではなくトイレに置くことを求め、その点も実現しました。

新婦人などの要望、各議会でのやり取りもあり、ナプキンの配布を行う市町村も出ました。

モデル事業終了後、9月14日、全県立学校でこの事業を行うとの発表があり、うれしく受け止めました。

#### 成人女性にも

「生理の貧困」は、高校生・大学生だけではあ



りません。成人女性等にも配布を、と県に求めていました。

県は9月17日、県施設10カ所で400セット(昼用・夜用各1パックで1セット)の生理用品を配布するとしました。配布場所は県庁・かながわ男女共同参画セン

ター・かながわ県民センター・川崎県民センターなど各地域の県政総合センターです。この事業は、今のところ恒常的なものではありません。400セットがなくなり次第終了という点が、少々残念ですが。

#### 「生理」を捉え直すきっかけに

このような前進とともに、「なぜ女性だけが、金銭的にも肉体的にもこんな負担を負うのか」という声も出てきました。生理用ナプキンを通じて、女性の人権がより具体的に捉えられることにも繋がります。

また「トイレトペーパーのように、トイレに常設されていて然るべき」という声も。「必要とするすべての人に生理用品を無料で提供」というスコットランドの例もあります。

いずれにしても、様々な場で論じられることは、生理ひいては女性の人権を捉え直すきっかけともなります。

映画が好き

## 「太陽の子」

池田 資子(会員)



戦争末期の1944年～45年、日本で原子爆弾開発が行われていた事実をご存じだろうか。黒崎監督が広島で偶然目に

した若い科学者の日記をきっかけに、この作品は作られた。2020年8月にテレビで放映され、今回はその劇場版である

京都帝国大学荒勝研究室では、海軍の極秘研究が行われていた。修（柳楽優弥）は研究材料のウラン入手に苦労しながらも、研究に没頭していた。しかし、「この研究が成功すれば、戦争は終わる」と信じていたのかどうか。彼は科学者として、実験を通して真実に近づく事だけに心を奪われていたのではないだろうか。科学者が兵器を造

る事に疑問を感じる者、同世代の若者が命をかけて戦っている時に、研究をしている事への罪悪感など、研究室ではトラブルが続くようになる。

一方、家屋疎開で幼なじみの世津（有村架純）が家を奪われ、祖父と共に修の家に同居することになった。そこへ、軍人となっている弟の裕之（三浦春馬）が突然帰還してくる。45年夏のことである。戦争の最中にも日常の暮らしがある。若者三人の一瞬のきらめきと不安。海で過ごす半日は忘れられないシーンである。死の恐怖に入水しようとする裕之、必死で止める修と世津。「戦争なんか、早よ終わればええ。勝っても負けても構わん」世津が二人を抱きしめて叫ぶ言葉は、国民の多くが同じ思いであったらと思う。

8月6日広島に新型爆弾投下、8月9日長崎。修達は広島の被害調査に向かう。そこで目にした惨状は…。

この映画は反戦争映画ではあるが、死と向き合いながら必死に生き、未来を信じようとした若者の姿を通して私たちを励ましてくれる映画でもある。エンディングに流れる主題歌「彼方で」は、被爆地長崎出身の福山雅治。歌を聴いていると、青い海と三人の笑顔を思いだし、涙が止まらなかった。

## 第36回女性労働セミナー／オンライン 日韓女性＜働き方改革＞シンポを視聴 小島八重子(会員)

9月13日、第36回女性労働セミナー／オンライン日韓女性＜働き方改革＞シンポ（女性労働問題研究会・シンポ実行委員会主催）が開催された。シンポは、日韓をオンラインで結び（同時通訳）、日韓の労働改革とコロナ禍の影響を女性労働の視点から検証するために企画された。約300人が参加。

第1部は、日韓のコロナ禍と「働き方改革」のジェンダー分析をテーマに韓国からはユンジャンさん（忠南大学校経営大学経済学科准教授）とチェソングジュさん（前ソウル市労働協力官）。日本からは竹信三恵子さん（ジャーナリスト）、蓑輪明子さん（名城大学准教授）が報告。日韓報告の共通点は、世界的なパンデミックの中で、女性労働者、とりわけ、非正規（教育・飲食・芸術などのサービス業、医療・介護・保育などのケアワーカー）が時短や失職の影響で家庭に帰らざるをえない状況に追い込まれ、ジェンダー平等が足踏み状態になっていること。しかし、コロナ禍で、女性が多く従事する医療や介護、保育の重要性が再認識され、エッセンシャルワーカー（特に、医療・介護・保育など）の認知度が上がったとの指摘もあり、今後女性職が多い職種の地位の

改善が期待される。

第2部では、日本からは、介護の現場、フリーランス（特に俳優）や公務職場の非正規の問題、プレカリアート労働・反貧困の運動、「#KuToo」運動、青年を中心とした労働運動、組合攻撃されている、女性たちの報告。韓国からは、放送作家やパンの大型チェーン店での組合運動の報告。コロナ禍の中でも、ジェンダー不平等を改善する運動を行っているとの切実な声を聞くことができた。

コメントーターの伍賀偕子さん（元女性オルグの草分け）は、総評で23年間オルグ活動をしてきた経験から10人の方々の報告を受け、「60年代・70年代運動は「結婚しても出産しても働き続けられる労働条件を」と、母性保護や保育所運動等を行ってきた。80年代・90年代「女も男も人間らしい労働と生活を」というスローガンを発展させ、95年の北京会議でジェンダーの主流化、そしてILOでディーセントワークが国際用語に。これを実践するのは、まさに女性たちの生活に根ざした権利要求が横につながるのだと思います」と結びました。

日韓女性（働き方改革）シンポ  
ジェンダー視点で考える日韓の（働き方改革）とコロナ禍

★第1部 日韓のコロナ禍と「働き方改革」のジェンダー分析  
コーディネーター・コメントーター：横田伸子  
ユンジャンさん 竹信三恵子さん  
チェソングジュさん 蓑輪明子さん

★第2部 「フェミに生きる」が働き方を変える～日本の女性労働運動ニューウェーブ～  
コーディネーター：竹信三恵子さん  
小島八重子さん 雨宮処凛さん  
キムハンビョルさん 森崎めぐみさん 石川優美さん  
イムジョンリンさん 松元ちえさん 岩崎唯さん  
三浦かおりさん 松尾聖子さん  
コメントーター：伍賀偕子さん

オンライン(Zoomウェビナー)開催  
※人数制限に達した場合は、YouTube配信になります

2021年9月12日(日)  
13:30-17:30  
参加費：無料  
申し込みQRコード

詳細はこちらのチラシから  
<https://bit.ly/37JqkYv>